

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000493		
法人名	有限会社 和 のどか		
事業所名	グループホームのんき		
所在地	山形県東田川郡三川町大字猪子字下堀田230番地1		
自己評価作成日	令和1年10月29日	開設年月日	平成14年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社福祉工房		
所在地	仙台市青葉区国見1-16-27-2F		
訪問調査日	令和1年12月12日	評価結果決定日	令和2年1月30日

(グループホームのんき ユニット2)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 家庭的な雰囲気の中で急がずゆっくり、のんびりとした、そして、豊かな生活が送れるように努めています。
- 毎日の暮らしのなかに生活の再現を取り入れ、一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけて支援することを大切にしています。
- 地域との交流を大切に考え、地域・学校の行事参加、散歩時の地域の人との会話、行政の方との連携と積極的に関わるようにしています。
- 自然にふれ季節を感じるように、畑や散歩で一緒にとってきた野菜と一緒に調理をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット1に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域から信頼される地域へ貢献する施設を目指す と理念に掲げている。業務に入る前に確認できるようになっており、日々実践できるようになっている。	従来の理念を、より明確にするため、昨年4月に職員と話し合いを行い、新たな理念を作成。職員は業務日誌に添付し、日常より確認し、実際の支援の際に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、ボランティア様の歌謡会、お祭り、安全見つめたい活動参加、保育園運動会参加、小学校行事参加、地域に呼びかけた当事業所の夏祭りなどで交流を図っている。小学校からは行事案内を頂いたり、毎年の行事参加は定着している。	地域の歌謡ボランティアや、保育園の園児の来訪、また、地区の小学校の行事などへの参加や夏まつりなどでの交流、などにより、地域との関係は深まっており、さらに事業所では定期的にオレンジカフェの開催も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族の方に24時間、介護相談を行っている。GH交換実習などの受け入れやボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に定期的に開催している。参加者は町内会長、民生委員、行政、利用者の家族で、サービスの状況の報告し、参加者と意見交換して課題解決、サービス向上をしている。	隣接のGHあつとホームのんきとの合同で二か月に一度開催。行政、地区の民生委員、利用者家族などが参加。事業所での状況を主に説明。	年間での概略の計画を立て、事前に議題を明示し、事業所における課題等を、より活発に話し合えるようにしていく事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、事業所の実態を細かく伝え、コミュニケーションはとれており相談しやすい関係となっている。町の介護情報や外部研修や講演会の案内メールが届いている。	担当者が運営推進会議に出席するなど、日常より相談できる体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関に施錠せず、利用者が自由に動ける環境作りをし、外出時には職員と一緒に付き添っています。虐待防止・身体拘束適正化検討委員会による研修が年4回行われ、身体拘束に当たる行為などを再確認している。	身体拘束ゼロ宣言を行い、身体拘束委員会を組織し、定期的に会合を持ち、職員への研修も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束適正化検討委員会による研修を行っています。また、外部での研修にも参加しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で手続きや金銭管理等の援助を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に施設を見学して入所者の様子を観察していただき、理念や方針について説明、不安や疑問にも答えています。後日、契約時に改めて、説明し手続きしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの疑問や要望、苦情には随時対応を行い、その後の経過や結果について報告している。玄関には意見箱が置いてある。	家族来所時や運営委員会の家族代表からの意見を得ている。家族に対してのアンケートを一昨年度は実施し、支援に役立てる取り組みも行われている。アンケートの内容を検討し、継続して実施していく事も期待される。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議を開き、意見や要望を聞く機会を設けている。主任会議、ユニット会議も同じ		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得や勉強会、研修への参加奨励をしている。毎月、希望休の有無を聞いている。介護職員処遇改善費の活用も取り入れている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得や勉強会、内部研修、外部研修への参加奨励をしている。	計画的な研修の実施や、職員の資格取得への取り組みが積極的に行われており、より質の高い支援を目指した取り組みがうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県GH協会に参加し、交換実習の受け入れ情報交換をしています。GH協会主催の勉強会、外部研修への参加の奨励を行っています。	県GH協に参加し、交換実習などの取り組みが行われ、また近隣のGH事業所との情報交換などの取り組みも行われている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談により、本人、家族から困っている事や要望を聞いている。居宅介護支援事業所からも情報をいただき、本人が安心して過ごされるように、チームが連携して取り組み、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や来所相談をいただいた時点より家族の困り事や相談事をお聞きし、家族の思いを共感することに努めている。次に施設見学、事前面談により詳しくお聞きし、こちらでの対応の仕方など説明し、不安解消できるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容において、他のサービスが妥当である場合には、状況に見合った医療機関や介護施設を紹介したり、情報提供にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の「出来る事」を多く発見し活動に結びつけている。話し相手が出来る環境作りをするなど、本人が落ち着ける場を提供出来る様に働きかけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や、一緒に参加できる行事の開催等、本人と家族の絆を深める機会をつくっている。月一回お便りで近況を報告し共有することで、共に本人を支えていく関係を築いている。連携医院以外の通院は家族にお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの協力もいただきながら、外出、買い物、外食、お墓参り、散髪などに行ったり、知人、友人の来所も歓迎している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係の形成には配慮し、さりげなくフォローしています。関りが難しい利用者には、職員が間に入ったり、会話を多くもち、孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も相談等、随時必要な対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での本人の思いや意向に耳を傾けています。また、表現することが難しい方には日頃の仕草や表情から推測して把握に努め、プランに反映させています。	入所時に利用者の生活歴を確認し、日常の生活や会話より利用者の意向を把握し、職員間で話し合い、支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より本人、家族、ケアマネ等から、これまでの暮らしの様子、生活歴、こだわりやサービス利用の経過等様々な事を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれのペースに合わせた援助を行っています。本人のできる力に注目し、その力を発揮できるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、職員のアセスメントをもとに、カンファレンスを行い多職種で検討しケアプランを立てている。担当を中心に毎月モニタリングを行い、家族にも送付している。	利用者の意向や家族からの意見をもとに、職員間での話し合いをもとに介護計画を作成し、毎月の見直しや半年に一度の再作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事や変化、気づきについて、日誌や個人ケースに記録し、職員間で情報を共有し実践に活かしている。毎月モニタリングし、利用者の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・理美容・町内の行事・ボランティアの受け入れ、友人の来訪など利用者が必要と思われる地域資源は、積極的に関わられるように支援し、活用している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。。家族付き添い時は「状態報告書」を作成し、本人の状態にあった適切な医療を受けられるように支援している。緊急時は医療機関、家族と連携し、速やかに対応している。	協力医による月二回ほどの往診、かかりつけ医や歯科医へは原則家族対応としている。家族が出来ない時は、介護タクシーの利用を行い、職員が同行している。又、家族が同行するときには状況説明書を作成している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化が見受けられた場合は、看護師に状態を報告して指示を仰ぎ、状態に応じてかかりつけ医に連絡、受診となっている。協力医との連携のなかで、いつでも相談できる体制ができています。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「情報提供書」にて入院前の情報を病院に伝えている。医療連携室の相談員や病棟看護師と随時情報交換や面会により状態把握に努め、退院後の受け入れ体制を整えている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期に向けた方針を説明している。病院の医療連携室の相談員と連携をとったり、病棟看護師と情報交換し支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した時の方針を説明し、同意書に確認をもらい、状態が変化したときには医療、家族を交えた話し合いを行い、看取りに関する確認を取っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署隊員の指導で、緊急、応急処置訓練を行っている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	猪子町内で行なっている避難訓練、消防署と日中想定避難訓練を利用者も参加し行っている。また、イオンモール三川店の水害避難訓練に参加し利用者を車でイオンまで避難させる訓練を行った。ホーム単独での避難訓練も行っている。	火災、水害、地震に対しての事業所における避難訓練が頻繁に行われ、地区における訓練にも参加。水害時の避難場所とされている地区のショッピングセンターへの避難訓練も利用者とともに行われた。避難方法に関しては、町の防災担当との連携が行われ、安全に避難する確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、接遇、プライバシー保護について内部研修を行っている。接遇では人間関係を良くするために自分を知り、他人を知る研修を行った。	内部、および外部で利用者のプライバシーに関しての研修が行われ、日常での支援でも不適切な支援の場合、都度注意が行われている。隣接のあつとホームと同様に、職員に振り返りを行っていく事も期待される。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、意思決定をする時は、本人に希望を聞いている。思いや希望を表しやすい雰囲気づくりを心がけています。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は目安として決めているが、時間に追われる過ごし方はしないようにしている。希望に沿った支援を提供する様にと心掛けている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴などで着衣交換する時は、自分で着たい服を選んでいただいている。職員は季節感等に気を配り介助している。		
		○食事を楽しむことのできる支援	入所前、嗜好調査を行い、利用者の希望や季節		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	の食材を使った献立を取り入れています。自分たちで植えた野菜を使うこともあります。野菜の皮むき、盛り付け、配膳、片付けなど一緒に行っています。	業者より材料を購入し、調理員が調理を行っている。利用者は下ごしらえや後片付けにも参加。季節には芋煮会や鏡割りとお汁粉作りも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の疾病や栄養状態、ムセや飲み込みの状態、食事摂取動作等に応じて、食事形態や提供量、食べやすい器の工夫等をしている。食事量、水分量の1日の摂取量を記録している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合った、使いやすい歯間ブラシやスポンジ等口腔ケア用品を工夫し、毎食後口腔ケアを行っている。昼食前には嚥下体操を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立に向けて、排泄チェック表でパターンを把握し、一連の動作において本人の能力を生かした支援をしている	排泄はトイレでの排泄を原則とし、排泄管理表を作成し、適時誘導を行っている。排泄管理はICT化が試みられ、タブレットを使用しての管理が行われている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの利用者には、お粥、オリゴ糖、水分量、運動等、自然排便につがるように工夫している		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人に入浴の意思を確認し、入浴している。入浴を嫌がる利用者には清拭することもあります。入浴剤等で楽しんで入浴していただけるよう工夫している。	週二回の入浴が原則行われ、入浴を嫌う利用者には無理強いせず、利用者の意向を大事に対応している。場合によっては足浴や清拭での対応も行っている。入浴に当たっては入浴剤を利用し温泉的な雰囲気づくりを行い、入浴を	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごすことで、夜間の安眠に繋がっている。体力的に休息が必要な方や、状態に応じて午睡の時間を設けている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬情報を常に確認できるようにファイリングしている。薬の変更があった場合は職員に周知している。服薬の影響を把握し、禁食など食事との関連にも気配りをしたり情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意とする事、経験を生かせる場面を設定して力を発揮していただき、自分の役割としながら喜びを感じる生活を支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「墓参り」や「地域の祭り」「外食」等本人の希望に沿って家族とも調整しながら機会をつくっている。天気の良い日には、日光浴、散歩、買い物、畑、ドライブに出かけている。	季節や天候によって、近隣での散歩、買い物が利用者の希望により行われており、利用者によっては事業所の畑での収穫なども行っている。庄内空港や、白糸の滝などへのドライブや外食などの取り組みも行われ、利用者の楽しみになっている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせた管理をしています。ご自分でお金を支払う場面もある。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて家族との連絡を取り合う様に支援している。個人の携帯電話を自己管理している方もいます。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快に思うような音、光などには配慮し、不快な思いをしないように気をつけている。。利用者と花を摘んできて飾るなど季節感を感じられるような工夫をしている。	事業所内には花が飾られ、利用者がゆったりと過ごせるようなリビングにはソファなども置かれ、窓からは山々が見え落ち着いた環境が確保されている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に過ごせている。居室以外にも、一人または複数名でゆったりと過ごせるスペースが確保してあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合いながら準備して、使い慣れたものや、思い思いの品々を置き、安心して心地よく過ごせるようにしている。	利用者が自宅と感じられるように、家族の協力をもらいながら馴染みの品を持ってきてもらい、落ち着いて部屋で過ごせるように工夫されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や共同で使用する場所に関しては、本人が混乱せず認識できるように名前や張り紙をして対応しています。物や段差につまづいて転倒しないようになど安全に配慮しています。		